授業科目名： 国際関係論	教員の免許状取得のための の選択必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大嶋　英一 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）	外交の実務経験を踏まえ、実践や問題解決に役立つ議論を行う		
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校社会及び高等学校公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学、政治学」中学社会 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」高校公民		

「学位授与の方針」との関係

狭隘な見方に陥ることなく国際的視野を身につけることで、学位授与の方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。

授業到達目標及びテーマ

(到達目標)

究極の目的は、「国際的視野をもって自分自身で物事を考え判断する能力を身につけること」にあるが、これは一朝一夕に成し遂げられるものではない。そこで、本コースでは、「グローバル化した世界に住む現代人として必須な国際関係に関する基礎知識を身につけると共に、様々な異なる見方やアプローチがあることを学ぶことで、狭隘な見方に陥ることなく、共生的な世界を実現するにはどうしたらよいか自分なりに考えられるようになる」ことを到達目標とする。

(テーマ)

（１）国と国際社会
（２）国際秩序とその変化
（３）国際社会が直面する課題
（４）共生世界を目指して–日本は何ができるか

授業の概要

第二次世界大戦が終了して７5 年以上になるが、世界では依然として戦争や紛争が絶えず、テロの脅威が吹き荒れている。また、グローバリゼーションの進行は世界を一層小さくしている。国際間の貿易や金融の発展は私たちの生活を豊かにしている一方、グローバリゼーションの進行で金融危機のように世界のどこかで起きたことが、一瞬にして日本に悪影響を及ぼすこともある。さらに、気候変動や新型コロナウィルスの感染症のような地球規模の問題に対しては国際協調が欠かせなくなっている。他方、中国の台頭は、戦後米国を中心に形成された国際秩序を大きく変動させる可能性をはらんでいる。本コースでは、国内社会とは異なる国際社会の様々な側面について、理論面のみならず実際の外交での経験を踏まえて紹介し国際的視野を養う。さらに共生的な世界を築くために何が必要なのかディスカッションを通じて明らかにし、共生世界の実現のため日本の果たすべき役割について考える。

授業計画
第１回：国際社会と国内社会
第２回：近代国家と社会契約
第３回：外交の役割と実例
第４回：戦後国際秩序
第５回：国連
第６回：経済と国際関係
第７回：冷戦終結とグローバリゼーション
第８回：人権と普遍的価値
第９回：国際社会が直面する課題
第１０回：内戦・難民・テロと人間の安全保障・平和構築
第１１回：ロシアのウクライナ侵攻
第１２回：ナショナリズムと歴史問題
第１３回： 中国の台頭–パラダイムは変わるのか？
第１４回：日本の国際貢献
第１５回：共生的な世界を目指して
定期試験

スクーリングでの学修内容
本コースの四つのテーマ[（１）国と国際社会、（２）国際秩序とその変化、（３）国際社会が直面する課題、（４）共生世界を目指して]についてエッセンスを講義し、ディスカッションをし、さらに受講者の質問に答える。

教科書
（１）山脇直司編『共生社会の構築のために』第 IV 章「国と国の共生のための基礎知識」
星槎大学出版会　2019 年
（２）長有紀枝『入門 人間の安全保障　増補版』中公新書　2021 年

参考文献
（１）高校用世界史 B・日本史 B 教科書
（２）明石康『国際連合』岩波新書　2006 年
（３）ジョセフ・ナイ他『国際紛争』（原書第 10 版）有斐閣　2017 年
（４）田中均『日本外交の挑戦』角川新書　2015 年
（５）山影進『国際関係論講義』東京大学出版会　2012 年
（６）大嶋英一「国際関係論と“社会に開かれた教育課程”」『星槎大学教職研究』第２巻
第１号　2017 年
（７）橋本明子『日本の長い戦後』, みすず書房, 2017 年
（８）手島純『16 歳からの哲学』彩流社, 2014 年
（９）重田園江『社会契約論』ちくま新書　2013 年
（１０）高坂正堯『国際政治』中公新書　1966 年
（１１）加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫　2016 年
（１２）田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版]　有斐閣　2010 年
（１３）外務省ホームページ：http://www.mofa.go.jp/mofaj/
（１４）国連広報センターホームページ：http://www.unic.or.jp

学生に対する評価
レポート評価（２５%)、スクーリング評価（２５%)、科目修得試験（５０%）の割合で総合して評価する。